

Green Brave

#52 埼玉 GB GR Supra GT4

2024年9月28日(土) ~ 29日

BRIDGESTONE

Super Taikyu

Japanese Endurance Race

ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 Empowered by BRIDGESTONE

第5戦 SUZUKA S 耐 5 時間レース 鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市)

予選 1 位からスタートするも決勝のペースに苦しみ 4 位

予選日(土曜日)の天候は曇。前戦での不振の原因となった性能調整には変更が加えられ、若干の出力アップが行われた他、前戦比 5kg 増となる 70kg のウェイトが搭載されています。A ドライバーの予選は 14 時 25 分から行われ、ジェントルマンドライバーの山崎選手が予選開始と同時にコースイン。2 周目に 2 分 12 秒 400 の好タイムをマークし、トップで予選を終えます。B ドライバーの予選は 1 時間後に行われ、吉田選手は 2 周目に 2 分 11 秒 911 をマーク。両ドライバーの合算タイムにより、久々の予選 1 位を獲得しました。前戦からコース特性が大きく変わったことにより、息を吹き返した GR Supra ですが、ロングランのペースに不安を抱えている状況に変わりはなく、C ドライバーと D ドライバーの予選では、服部選手と野中選手が本番セットの確認を行いました。

決勝日(日曜日)の天候は曇。ピットウォーク開始前から雨が降っていましたが、スタート進行前にはやみ、乾いていく方向です。スタートドライバーは吉田選手で、ドライタイヤを装着してコースイン。11 時 50 分にスタートがきられ、トップをキープして 1 周目を終えます。後続車のペースが速く、吉田選手は徐々に後退。2 周目に 2 位、3 周目に 4 位、5 周目に 5 位へ。上位のペナルティにより、9 周目に 4 位となりますが、16 周目にランキング 2 位の #885GR Supra に抜かれ、再び 5 位となります。しかし、吉田選手は離されず、テールトゥノーズで走行。32 周目に #885GR Supra を抜き返すと、上位のピットインもあり、2 位へ上がります。34 周目の終わりに #25Z がピットに入り、吉田選手はトップへ。ピットのタイミングが近づきますが、FCY(フルコースイエロー)を活かすことができず、上位陣の中で最も遅い 38 周目の終わりにピットイン。野中選手に交代し、給油とタイヤ交換を行います。

コースに復帰した野中選手の順位は 5 位。上位の多くはジェントルマンドライバーが走行しており、すぐに 4 位に上がると 46 周目に #22 ポルシェを抜いて 3 位へ。野中選手はさらに #555AMG との差を削っていき、60 周目にパス。さらに 66 周目にはトップのピットインを行ったため、トップに復帰します。野中選手は 74 周目の終わりにピットイン。山崎選手に交代し、給油とタイヤ交換を行います。

コースに復帰した山崎選手の順位は 3 位。上位の多くはプロドライバーで、劣勢を強いられます。84 周目の終わりに #22 ポルシェが 3 回目のピットインを行い 2 位に上がりますが、86 周目に #25Z、さらに 87 周目に #885GR Supra に抜かれて 4 位へ。その後、上位 2 台が 3 回目のピットインを行い、トップに立ちますが、山崎選手もピットイン義務を残しており、苦しい展開です。101 周目、後方から追い上げてきた #22 ポルシェに抜かれ、2 位へ。山崎選手は A ドライバーの乗車時間をクリアした 108 周目の終わりにピットイン。服部選手に交代し、給油とタイヤ交換を行ってピットアウトします。コースに復帰した服部選手の順位は 4 位。残り時間は 30 分ほどとなっており、すぐに追いつきたいところですが、コースインとほぼ同時に 5 回目の FCY が導入され、チェッカーの時間が徐々に近づいてきます。109 周目に FCY が解除。服部選手は表彰台フィニッシュを目指してプッシュしますが、順位を上げることはできず、4 位でチェッカー。着実にポイントを上積みしたものの、新たなライバルの台頭もあり、ミスは許されない緊迫した状況で終盤戦を迎えます。

決勝結果 (ST-Z クラス)

#52 埼玉 GB GR Supra GT4

(山崎 学/吉田広樹/服部尚貴/野中誠太)

決勝: 4 位 (120 周、5 時間 03 分 13 秒 131)

予選: 1 位 (合算タイム: 4 分 24 秒 311)



DRIVERS VOICE

山崎 学選手

ロングランは厳しいだろうという感触の中での予選 1 位でした。それはそれでうれしかったのですが、決勝はどうしようとずっと思っていました。苦しいのがやっぱり出てしまった感じですね。ライバルに対して、決勝のペースとタイヤの摩耗が厳しいという懸念はあったのですが、本当にその通りになってしまいました。新たなライバルがポイントを積み重ねてきているので、残り 2 レースしかないのですが、シリーズを考えたらやっぱり表彰台に登りたいですし、気持ちいいレースをしたいです。

吉田広樹選手

乾いてきてからは悪くなかったので、最初の濡れているところをうまく走れなかったのが、そこがすごく悔やまれます。この前は違うカテゴリーで自分のミスもあったので、絶対にバトンをつなぐという意識で走りました。自分の足りなかったところは今後の課題として、頑張りたいと思います。ポイントをしっかり積み重ねるのがシリーズを狙う上で大変なところなので、ぼくらのチームワークで最低限はカバーできたのではないかと思います。表彰台に乗って残りのレースを締めたいと思います。

服部尚貴選手

自分の走行は 30 分ぐらいでした。3 人の走行が予定より長引き、最後にギョッと詰まった感じです。作戦としては今日できることをやったと思いますが、FCY で得するタイミングではピットに入れなくて。アンラッキーも多かったのですが、優勝は難しかったです。#885GR Supra 以外にもライバルがランキング 2 位タイぐらいのところまでできているので、決して楽ではありませんが、まだリードしているのは事実です。ちゃんとポイントを取り、チャンピオンで終われるように集中していきたいと思います。

野中誠太選手

自分の走行は元から引っ張る計画でしたので予定通りです。ほとんどの時はドライだったので、雨の残っている場所はほとんどなく、通常通りに運転することができました。まわりがジェントルマンのタイミングだったので、ぼくがなるべく抜いて、順位を上げることができました。前戦と同じくライバルがかなり速く、ベストを尽くしても表彰台に乗れないのは非常に悔しいです。ただ、ランキングトップを維持しているので、BOP の部分をしっかり見て、結果につながるようなレースをしていきたいと思います。

ST-Z クラス決勝結果

順位	チーム	周回数
1 位	EBI GROUP Cayman GT4 RS CS (ポルシェ 718 ケイマン GT4 RS)	121 周
2 位	TECHNO FIRST R8 LMS GT4 (アウディ R8 LMS GT4)	120 周
3 位	raffinee 日産メカニックチャレンジ Z NISMO GT4 (日産 Z GT4)	120 周
4 位	埼玉 GB GR Supra GT4 (トヨタ GR Supra)	120 周
5 位	Hitotsuyama Mercedes-AMG GT4 (メルセデス AMG GT4)	119 周
6 位	シェイドレーシング GR SUPRA GT4 EVO (トヨタ GR Supra)	119 周

出走 13 台 トップ 6 まで

ST-Z クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1 位	52	埼玉 Green Brave	111
2 位	22	Porsche Team EBI	74
3 位	885	SHADE RACING	72.5
4 位	34	TECHNO FIRST	61.5
5 位	21	Hitotsuyama Racing	57
6 位	26	TEAM ZEROONE	50.5

上位 6 位まで

【次戦】 第 6 戦 10 月 26 日～27 日 岡山国際サーキット (岡山県美作市)

Green Brave PARTNERS



赤城車体工業株式会社



株式会社アース・コーポレーション



株式会社アルシエ



株式会社 FM NACK5



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社西武ライオンズ



ティーズ・ワークス



株式会社デンソーソリューション



東京麒麟ビレッジサービス株式会社



トヨタホーム東京株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



有限会社 MY CARS



マックメカニクスツールズ株式会社



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC



株式会社リビコー